

授業改善のイメージ(美術科)

本年度の研究テーマ(2年次)

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成
～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

授業改善を行う題材(単元)とその評価規準(思考力・判断力・表現力等)

1年「見つけ、感じ取り、描く」 (絵・彫刻)	2年「季節感のある暮らし」 (デザイン・工芸)	3年「人が生きる社会と未来」 (デザイン・工芸)
<ul style="list-style-type: none"> 身近なものから感じ取ったことや考えたことを基に主題を見つけ、自分なりに工夫して表現の構想を練っている。(A表現) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。(B鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> 季節感や、四季の風物から考えたことを基に主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練っている。(A表現) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。(B鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> 使う目的や条件などを基に、使用するユーザーの立場・心情や安全性などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。(A表現) 身近な環境の中にみられる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。(B鑑賞)

「思考力・判断力・表現力等」の育成の方針

(1) 大切にしたい見方・考え方の明確化

美術科の見方・考え方 ＝「造形的な見方・考え方」	<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせる 対象や事象を造形的な視点で捉える 自分としての意味や価値を作り出す
-----------------------------	---

生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

(2) 「見方・考え方」を働かせるための「見通し」と「振り返り」の場面の設定

① 「見通し」をもたせる場面

○見方・考え方を働かせる発問の工夫

- 特に発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、
- 思考ツールやアイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりする場面を設定する。
- 対話型鑑賞等で説明しあうなどして、対象の見方や感じ方を広げ、深める言語活動の充実を図る。

○見通しを共有する場面の設定

- 本時のねらい(目標)とキーワードを板書で示し、目標を振り返りシートに記入させることで、その授業で身に付けたい力や目指すゴールを学習者－指導者間で共有する。
- A表現では「本時の流れ」をあらかじめ板書し、制作可能時間(経過時間/総時間)を示すことで学習者が見通しをもって学習活動に取り組むことができるように環境を整える。

② 「振り返り」の場面

- 毎時間、授業終了5分前に振り返りシートを活用して「本時の目標が達成できたか」振り返りを記入し、学習活動に対する学習者のメタ認知向上を目指す。
- 手帳で用いている「振り返りレベル」を参考に、振り返りそのものの自己評価を行い、指導者の評価と比較することを通して振り返りの質の向上を目指す。

評価方法の充実の方針

① 形成的評価 …学習者の指導・学習支援方法の改善につなげる

- 発想・構想段階でアイデアが思いつかない学習者の把握
→思考ツールや「美術チェックカード」(藤村・岩佐, 2019)による発想・構想支援
- 技法の選択に悩む学習者の把握
→各種画材による造形実験, 教科書・資料集や ICT 端末の活用支援

② 総括的評価 …題材そのものの改善へつなげる→次年度指導計画の改善へ

- パフォーマンス評価(作品の完成度だけでなく、「どのように考え、創意工夫し、試行錯誤したか」過程を把握する)
- ポートフォリオ評価(思考ツール, アイデアスケッチ, 振り返りシート, 作品, 等)